



皆さんこんにちは！

地域おこし協力隊の渡辺です。

今月の集落支援だよりでは、福島大学のオンライン報告会、美大生の集落訪問の様子について紹介します。



地域おこし協力隊 集落支援担当

渡辺 貴洋 隊員

## 福島大学のオンライン報告会

福島大学の岩崎ゼミの学生が中町集落の住民に向けて活動報告会を行いました。この報告会は、毎年現地で行われてきましたが、新型コロナウイルスの影響により昨年は実施することができませんでした。今年も直接訪問することは控えることになり、代わりにオンラインを活用した方法で実施しました。今回は、岩崎先生をはじめ、ゼミの3・4年生30人と集落から12人が参加しました。学生からは、これまで奥川地区で実施した各イベント



オンライン報告会の様子

への参加や人足体験、中町集落での1日孫体験の発表があり、発表を聞いた住民の皆さんは学生と過ごした当時は懐かしんでいる様子でした。

岩崎ゼミの皆さんは、これまでの調査活動をもとに「屋号マップ」や「奥川魅力マップ」の案を作成しました。学生の視点で捉えた奥川地区の良さが目に見える形で発信されることで、情報が人から人へと伝わり広がっていくと良いと感じています。中町集落では、学生との継続的な交流が行われている中で、学生からの提案を実際に形にする動きが出てきていま

## 美大生らが集落訪問

美術大学に通う学生3人が、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で、中町集落にある権現堂でそれぞれの作品を展示するために現地調査を行いました。権現堂のほかに、弥平四郎集落や弥生集落、極入集落にある大聖歓喜天、小屋のかたくりの群生地も見学しました。奥川地区



中町集落にある権現堂

す。今年度は、屋号看板を作成して集落全戸に掲げる予定です。私も引き続き、集落や学生のサポートができるように活動に取り組んでいきたいです。の人や自然に触れながら、作品制作のアイデアを模索しているようでした。この土地で感じたものを作品としてどのように表現するのか今から楽しみです。



集落を訪れた美大生たち

今後も、町外から来た学生が集落に入り、活動の場を広げていくと同時に、集落の皆さんとの交流が生まれることを期待しています。感染症予防対策をしながら、コロナ禍でもさまざまな方法で学生と関わる機会ができています。こうした動きが集落の元気づくりにつながっていくと良いと思います。